

## 第1回 JRS/JCR 社会医学 WG セッション開催報告

2021年（令和3年）8月28日（土）、第1回 JRS/JCR 社会医学 WG セッション「専門医養成から考える地域への放射線科の関わり方・新しい医師の働き方 ～理論と実践～」が開催されました。コロナ流行下、複数自治体が緊急事態宣言下であり、オンライン形式での開催となりました。事前登録73名、当日の実際の参加者は58名でした。

セッション2からは、オブザーバーとして、参議院議員・医師 自見はなこ先生（前 厚生労働大臣政務官）にご参加いただきました。

JRS/JCR 合同 社会医学 WG は、放射線科医療をとりまく状況が急激に変化しつつある現在、専門医制度・働き方改革や、社会保障制度の行方、地域医療の今後などの社会医学的諸問題への理解を深め、今後の活動へとつなげることを目的に本年2021年に発足しました。

WG では、専門医制度に関する問題点をはじめとして、医療政策への理解や、放射線科医こそできる医療への関わり方・医療提供の方策についてなど、今後取り組むべき多くの課題が明らかとなりました。そして、多くの方との意識共有の目的で今回のセッション開催の運びとなりました。

第1回セッションでは、JRS 副理事長 富山憲幸先生より開会のご挨拶をいただいた後、セッション1では、これまでも JRS/JCR 医療経済・政策勉強会にご協力いただいている松葉香子氏（GEヘルスケア・ジャパン株式会社）より、RVU（relative value unit）/Effort-Based Measurement および米国をはじめとした海外最新医療事情のご講演をいただきました。

セッション2では、「新しい放射線科医の働き方～理論と実践～」という主題のもと、冒頭に、横浜市立大学 山城恒雄先生より、専門医養成の現状と今後の方向性、取り組むべき課題につき、ご講演いただきました。引き続き導入として、WG での論点整理・関東地域の放射線医療の実態や、各種解析案などが示されました。

その後、「放射線科の魅力の高め方ー放射線科医の特性と将来性ー・放射線科医が関わるべき医療改革」として、札幌医科大学 畠中正光先生より、「ネットワークを活用した地域医療貢献 北海道の試み」として、その地域の状況に沿った地域医療支援の導入方法や運用についての具体的な事例の紹介、また、オフィス・キヅ 木津 修先生からは、「議論の背景として共有すべきと思う事柄」として、日本の地域医療構想・社会保障制度・放射線科医として取り組むべき課題をご呈示いただきました。

さらに、東北大学 大田英揮先生からは、放射線科における SDGs として「Green Radiology」

というテーマにて、主に「放射線科のエネルギー消費」から、日本における CT, MRI の配置状況と、それらが及ぼす影響・医療の適正化等についてご考察いただきました。

その後、自見はなこ先生よりご挨拶として、医学教育と臨床研修のシームレス化の重要性、専門医制度の設計に関する話題、画像領域でのワンクラウド化の仕組みに関して、女性医師が参画できる環境整備の重要性、G-MIS, HER-SYS 等について、お話しいただきました。

セッション2後半では、山梨大学 大西 洋先生より、「遠隔放射線治療計画を用いた地域放射線治療ネットワーク」について、地域における実践と、高精度放射線治療の増加に伴う人員配置の重要性につき、ご講演いただきました。

さらに、「画像診断を通じた医療連携の実践」のテーマでは、西和医療センター 武輪 恵先生より、「奈良県の地域医療についての話題」として、地政学的な観点も含めた奈良県の医療の特徴や遠隔読影支援の実際・「医師散在」の状況や、奈良県における医師確保対策についてご紹介いただきました。

最後に、那須赤十字病院 水沼仁孝先生より、「画像診断を通じた医療連携の実践」として那須赤十字病院における連携の、詳細な運用方法・実績や病院経営への影響・構築に至るまでの歴史・医療連携のメリット等、お話しいただきました。

講演後、登壇者および、参加者からの質問（事前収集・チャット機能）も交え、放射線科医療のあり方についてディスカッションが行われました。

ディスカッションにおいては、医療の集約化と、国民の医療をどのように護るかの両方を考えることの重要性、自治体での施設集約の成功事例の紹介、民間中小病院がコロナ医療へ果たしている役割など、また、働き方改革がもたらすデメリット・メリットと医療リソースの適切利用という本来的な議論へ至る可能性、医療の集約化に際して考慮すべき事項、リスクマネジメントという側面から放射線科常勤医を配置すべきか、といった活発な論議がなされました。

さらに、医療連携に関して、遠隔画像診断・個人情報授受・画像診断から治療へとつなげる仕組みについて、その他、退職後の放射線科医の働き方や、エネルギー消費の観点での装置の選定方法等、多岐にわたる論議がなされました。

最後に、抽出された課題に対して、どのような方策が可能か、テーマを絞って掘り下げた論議を行っていくこと、具体的な働きかけについて（対 行政(知事会等)・国民（SNS の活用等））の検討に今後継続的に取り組むという方向性を確認して、セッションは終了しました。

（了）